

衆議院議員選挙に向けての各政党千葉組織へのアンケート

市民ネットワーク千葉県は1995年に発足、県内10市でこれまでに60人の女性議員を送り出し、地方政治に関心を持つ市民を増やそうと活動をしてきました。しかし国全体で見ると政治に参画する女性議員はなかなか増えませんでした。2018年に全会一致で成立した「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が施行され、今年6月にはさらなる取り組み強化に向けての法改正も行われました。各政党においては各候補者を男女均等（同数）にすることが急務の課題になっています。

しかしながら IPU（列国会議同盟）による世界の女性議員ランキングで、日本は193か国中166位（2021年1月1日時点）という現状であり、この秋の衆議院議員選挙では、政党の本気度が問われます。これを少しでも改善させるために政党の本気度が問われています。そこで女性候補者増の取り組みについて、別紙アンケートへのご回答をお願いいたします。

回答はメール、Fax、または郵送で9月30日までにお送りください。

結果は市民ネットワーク千葉県のホームページ及び報道機関への情報提供を考えております。

2021年9月13日

市民ネットワーク千葉県

共同代表 伊藤とし子

小室美枝子

I 衆議院選挙における女性立候補者増への取り組みについて伺います。

衆議院議員選挙候補予定者における女性の人数と割合を教えてください。男女比が均等でないことについて、貴党県組織の見解をお尋ねします。

II 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の改定を受けて県組織としての取り組みについて以下伺います。

- ① 男女の候補者の数の目標を策定していますか？

- ② 候補者の選定に県組織はどのようにかかわっていますか？

- ③ セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント等に県組織としてどのような取り組みをしていますか

- ④ この法律について研修や勉強会などを県組織として行っていますか？

- ⑤ その他男女候補者を均等にするための方策について県組織のご見解をお尋ねします。

III 政党の男女平等政策について県組織の考え方を伺います。

- ① 選択的夫婦別姓導入についての今後の取り組みについて、どれかひとつを選んでください。
 - ・ 選択的夫婦別姓制度を積極的に求めていく
 - ・ 通称使用拡大を図る
 - ・ 今のままでよい
 - ・ 夫婦同姓は家族の一体化を図るうえで欠かせない

②刑法改正の3年後見直しに向けて「性犯罪に関する刑事法検討会」取りまとめの報告会が公表されました。フラワーデモなどの広がりの中で関心を集めている次の論点についてのご見解をお聞かせください。

・不同意性交罪の創設について
賛成 反対 どちらともいえない

・性交同意年齢の16歳引き上げについて
賛成 反対 どちらともいえない

IV コロナ禍で女性の困窮（健康問題・貧困問題など）がより一層厳しいものとなり、2020年の女性の自殺者数は前年より935人も増えました。女性の抱える問題に対する見解と改善施策をご提示ください。

V 女性議員を多く輩出している諸外国の選挙制度を見ると比例代表制を取られているところがほとんどです。女性議員増を図るためには現在の小選挙区を中心とした選挙制度の見直しが必要との議論もあります。現行の選挙制度のついてのお考えをお聞きます。

- ・現行のままでよい
- ・小選挙区制の見直しが必要
- ・まだ検討していない

以上です。

お忙しいところありがとうございました。

ご記入担当者様名 ()

連絡先電話番号 ()

連絡先メールアドレス ()